

東京研修 感想文

ディレクトフォース夏季プログラム

ディレクトフォースでは、社会の中で自分達には出来ないような活躍した経験を持った 4 人の方々のお話が聞けました。最初の、近藤玄大さんの基調講演では、左利きの人にとって右利き中心の社会で過ごすことは、障害を持っているのと同じという考え方にとっても共感しました。自分自身も、他人にとっての普通が、自分にとっては普通ではないことが度々あり、話が合わなく友人と喧嘩したこともあります。また、学生時代は目の前の学校生活に精一杯取り組んだという話も、学校に合格体験記に書いてあったことと一致していたので、やはり社会で活躍できる人は、目の前のことに一生懸命取り組むことができるのだと感じました。左利きとして生まれることや、人が個性を持って生まれることなどと同じように、身体に障害を持って生まれてくることもその人にしかないことのため、手のないことも個性として考えていることに私は感動し、世の中の人がこのような認識を持てば、障害を持った人にとっても住みやすい社会になると考えました。そして、そのような社会になった方が、医療器具としての義手という面だけでなく、ファッションとしての義手という面も抵抗なく受け入れられ、義手開発時の研究も生産者や研究者と、消費者や被験者の間にある境界も壊せると思います。しかし、新しいことばかり求めるのではなく過去にやっていたことにも良いところがあるので、そこを見直すことも必要だと考えました。研究や開発の時には、常識にとらわれない発想と、常識識的な活動のバランスをとることで、仕事が楽しくなりものづくりとしての物語も進めていけると考えました。

第 1 クール目の、法について興味を持ち海外で活動した経験のある藤井麻衣さんとの対談ではどんな職も、文系理系の両方の役割があるのだということがわかりました。特に研究所でも、政策を考えるのは文系だけど、元になる知識や、研究成果を知っているのは理系であると言うお話しの際に、今考えている将来就きたい職業には、違う方面からのアプローチもあるということに深く共感しました。そのため、積極的に色々な分野ののことにについて調べて、常に視野を広く持つことで自分の能力を最大限に活かせる職業を選択できるようにしていきたいと考えました。経験した人にしかわからないようなことを学べて、とても知的な楽しさがありました。



第2クール目の、子供の外国語教育についての会社の代表を務めている相馬円香さんとの対談では、人をまとめるには伝える言葉でまとめるが、まとめる側は孤独なため自分1人で、独りよがりにならないように判断しなければならないということが、特に心に残りました。また、このことを聞いて、自分の周りのリーダーも簡単そうにリーダーをやっているが、見えないところで1人で苦労をしていると知り、改めてリーダーを務めている人を尊敬しました。私も委員会の委員長などを務める機会があったのですが、思うようにメンバーをまとめられず苦労したり、間違えた指示を出してしまうことがありました。しかし、今回のお話で考えの違いによる衝突や、失敗を次に生かすことに意味があるということがどれだけ大切かを再認識できました。また、様々な経験を積むことで大人になった後好きなことができることも学んだので、失敗から得た学びを生かして新たな経験をしていきたいと思えます。



第3クール目の、ヨーロッパで実際に働いて活躍した川崎有治さんとの対談では、世界で仕事をするには、考え方の違いを受け入れ、自分の強みや、自分にしか出来ないようなことをしっかり主張出来るようにする必要があると学び、自分のことを知るのも活躍する上では必要であることに驚きました。また、教養、つまり知識を身につけた上でその知識を相手に理解させる力が大切だと教わり、仕事などの交渉をするときは、コミュニケーションのためにまず話すことが大切だが、そのために英語以外にも中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、韓国語などの中からも習得した方が良いことが川崎さんの経験談から、非常に納得しました。また、交渉では論理的に話すが粘り強くなければならないということも学ぶことができ、世の中では話の筋が通っていないと良いことでも相手に伝わらないのだと考えました。そのために、私は今の段階から、論理的に話せるように練習していきたいと思えます。

企業大学訪問

私たちは、JAXA 相模原キャンパスの、宇宙科学研究所へ訪問させていただきました。まず、最も心に残ったのは、宇宙探査機はやぶさが、ミッションを遂行することが人間の一生と重ねられたのは研究所の方々にとっても驚くことであったことです。実際に、プロジェクトに参加した方も「はやぶさ」の機体を残したまま帰還させられないかを考えたこともあったそうです。イオンエンジンの、違うチャンネル同士をつなぐ



回路を入れたことをリーダーが知らなかったのが、忘れていただけの可能性が高いことを聞き、やはり優秀なリーダーといえども人間だからミスをしてしまうのだなど、感じました。また、リーダーには、自分が仲間を引っ張っていくものと、仲間を陰から支える物の、二種類があると分かったがどちらも失敗から多くを学び、その後の活動に生かすということは共通していました。今回、「はやぶさ」の話を聞いて他の衛星のこともしっかり知ってあげないといけないと感じました。

また普段の研究の様子は、自分の好きなことだからみんなで楽しく研究をしているということが分かり、研究者のやりがいはこのような日々の活動なのではないかと考えました。現在は新しいエンジンを民間とも協力して開発するなどや、民間にむけた部品の開発などもしているそうです。

そして、広報の役割などについてお聞きしました。広報に大切なのは、速さ、正確さ、公平さだということで、機械にしかない利点もあるが人がやらないといけないこともあると分かりました。

最後に、知り尽くしたコンピュータでない
と臨機応変な対応ができないのでわざと古い型のものを使用していることと、機械の



利点も把握した上で、あえて人がやるということの大切さ、に共通しているのは、世の中が最新を使うからといって流されるのではなく自分達の意味で最善を尽くすという姿勢も、学びました。

宇宙については、分かっていることの方が少ないため、まだまだ私たちには解明したい謎が多く、それを探求したいということが研究者の仕事です。私も謎を解明したいという探求心を忘れずに、夢を実現させます。

東京研修全体で学んだこと

仕事はどれも文理分野を両方含むため、学生時代の勉強はどれも無駄ではないし、知識、つまり教養はあった方が良いということはディレクトフォースでも研究所でも東大でも教わりました。しかし、教養があっても他人にそれを伝えられなければ意味がなく、英語もその点では同じことです。

今回の東京研修では、日常を過ごしているだけでは絶対に経験できないようなことが、大勢の方々のお陰で経験できたので、そのことを忘れず、この経験を自分の人生設計に役立てていきます。私も夢や目標を忘れずに努力を続けていきます。